

近畿のなかもま

「全国学習交流集会」に115名

面白い講演・透き通るコラス・素晴らしい感動に感動

「学んで変身、変えてよう職場可能性は8%」をメインテーマに、6月16日(土)～17日(日)、京都府宮津ロイヤルホテルで「金融労連2007年全国学習交流集会」が開催され、全国から例年を大きく上回る115名が参加しました。

1日目は、憲法9条をテーマに世界中で取材したDVD「レインボーワールド」の上映に始まり、坪倉実行委員長の開会あいさつ、地元の京都北部信金組合後藤委員長の歓迎のあいさつ続き、関西労働者教育協会の中田進講師から「若い仲間が参加する気を起

こす労働組合活動」と題した講演を受けました。

「ノイ」と言える勇氣を 中田進講師は、「働くことは、社会に役立つこと・自分が成長するほど・金を得るほどで、本来樂しいものであるのに、特に最近の若者はその樂しさを実感できない社会になつている」と自らが現在関わっている若者の過労死裁判などの具体的事例をもじり紹介。職場で増えている若い仲間の「うつ病」は、「その職場であり、生きる支えに必ずなるはず」と労働組合活動に参加していくことの大切さを強

め合つくりでストレスを減らしていくことが求められている」と話されました。

また、大幅な賃金削減を主張するなど、金を得るほどで、本来樂しいものであるのに、特に最近の若者はその樂しさを実感できない社会になつている」と自らが現在関わっている若者の過労死裁判などの具体的事例をもじり紹介。職場で増えている若い仲間の「うつ病」は、「その職場であり、生きる支えに必ずなるはず」と労働組合活動に参加していくことの大切さを強

No.5

2007.6.30

発行人
金融労連近畿地協
事務局長 福井悦雄



調査されました。

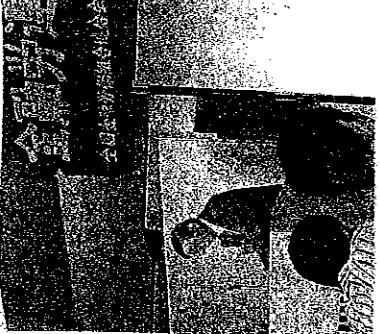
考えたらアカリ
憲法9条



会がもたれました。

分散会では残業・ノルマ・リスク商品の販売・賃金・職場の実態などを出し合い、解決方法などを話し合いました。夜の交流会では、bingoゲームを行い、「天橋立ワイン」など地元の名産品や地元の賞品に参加者も感激。また京都北部信金のアカペラコーラスグループ「CINO」の透き通る歌声に酔いしました。

2日目は、引き続き分散会を行った後、全体会で各班からの発表や全体のまとめが行われ、最後に平和の折鶴約2千羽が8月の原水禁世界大会(長崎)へ参加する金融労連の仲間に受け渡され、村田実行副委員長の閉会挨拶と共に



バロウを三唱し、終了しました。

参加者からは「宮津の美しい風景と京都北部の仲間の心からのもてなし、宮津ロイヤルホテルの素晴らしい設備に感動しました」という声が多く寄せられています。

京都北部の仲間を中心に行委員会の皆さんのが奮闘に心より感謝します。ありがとうございました。

モノ言べば難事で相べば不祥事

JR西日本の「自動教育」

107人が死んだ福知山線転轍機で国土交通省の事故調査委員会は「ミスをした運転士にペナルティと受け止められる自動教育や懲戒処分を科す」とは逆に事故を説明する形がある」と報告書で述べています。

ミートホープ社の「牛肉便箋」

雪印食品や不二家製菓など「食の安全」の事件の教訓を生かす、従業者が「モノを言えない職場」をつくって偽装を続けていたミートホープ社の食肉表示偽装問題でも、労働者を簡単に解雇するような企業の社会的責任が問われています。

厚生労働省の木下正彦

政府が社会保険庁の全職員に臨給の「自主退納」を求めている問題で、福島市労働者は「自主退納」し

ない職員を社会保険廃止・解体で見る日本年金機構に再雇用しないと発誓。消えた年金問題での国民の怒りに便乗して「雇用の踏み絵」をちらつかせ、労働条件の一方的不利変更を強要して、政府への批判をかわそうとするのはあまりにも情けない。成果主義の導入で国民不在の年金「免除」申請手続による見せかけの未納率低下に世論の批判を浴びたばかりだというのに。

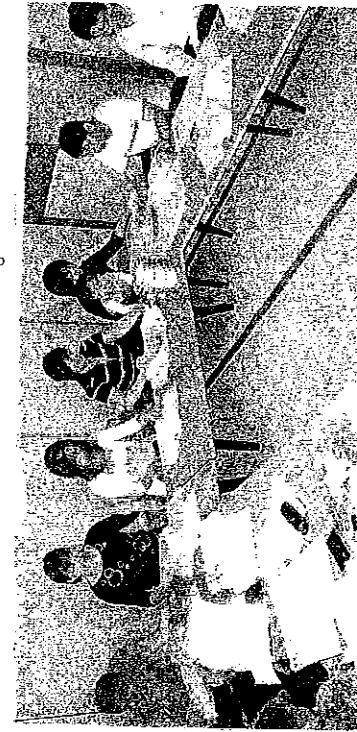
私たちのまわりで起こっている、労働者への「自動教育」を実施してきた鳥取信金公務員に不当処分を施行した兵庫信金など、モノ言えぬ職場づくり攻撃とたたかう労働組合の仲間への支援が大切になっています。

湯浅信金労組プラス
近信労で万全の体制を
来年1月をメドにきのく
に信金と合併が予定されて
いる湯浅信金では、合併先
との規模の違いから、事実

対応した湯浅信金の廣田
理事は「経営者としても湯
浅信金の人たちの労働条件
を守っていきたいと思って
いる」と述べました。

近信労では、既に組合員
全員が加入している「労働
共済」にも7月1日から45
人全員を追加登録しました。

今回の加入で近信労は一
気に76人の組織となりま
した。



(執行委員会で合併問題を話し合う湯浅の仲間)

近信労に新たに45人の仲間が加入

湯浅信金の非正規労働者も続々と

ひとりでも入れる個人加盟労組の近信労に、6月28日、湯浅信金の組合員を中心これまで労働組合に加入していなかつたパート労働者なども含めて45人が新たに加入了しました。

湯浅信金総代会の翌日となつたこの日、近信労では、伊藤委員長と田畠書記長が、「加入通知」と「合併に伴う労働条件に関する要求書」などを金庫経営者に直接手渡し、組合加入通告を行いました。

対応した湯浅信金の廣田理事は「経営者としても湯浅信金の人たちの労働条件を守っていきたいと思っている」と述べました。

近信労では、既に組合員全員が加入している「労働共済」にも7月1日から45人全員を追加登録しました。

上「飲み込まれてしまうのでは」という職場の不安が広がっていました。湯浅信金労組は、近畿地協などとも相談する中で仲間の不安を率先してとりまとめ、春闘要求に追加して経営者に提出するなど、仲間の生活と権利を守る闘いを進めていましたが、これまで加入していなかつたパート労働者や管理職層も巻き込んだ大きな構えが必要ということで、今回の近信労加入となつたものです。

近信労では、企業合併後には現行のきのくに信金支

再発防止策・本人謝罪など一定の前進も

(のぞみ信組「好き嫌い」人事考課問題)

今年2月から6月まで近信労は、5回にわたる団体交渉を開催し、笛木組合員に対する「好き嫌い」人事考課による不当な賃金カット問題を追及してきました。

6月12日の第5回団体交渉では、経営側が不十分なライドバック認めるも笛木さん本人への賃金カットの補填に応じなかつたため全面解決には至りませんでしたが、一定の前進をかちとっています。

その主な内容は、①直近の人事考課では、「この間の仕事ぶりに改善が見られた」として問題となつたC評価(平均水準以下)を改め、B評価にした、②苦情処理制度の創設を約束、③労組から指摘された不適切な事務処理方法の改善・統一に向けて努力する④笛木さんに不快な思いを与めていく構えです。



改修助成制度(福知山)

地域経済へ波及効果

京都府福知山市の住宅・店舗改修助成制度は、2006年度までの2年半で25億円を超える工事発注となって、地域経済の活性化に大きな役割を發揮しました。

助成制度は、市民が住宅や

店舗の修繕・補修工事を行う際、市内の業者に発注すれば、工事費用の10%を助成します。(対象工事は30万円以上、助成限度額10万円)。

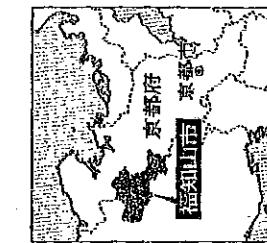
京建労福知山支部は2011年から自治体助成を求める請願署名運動に取り組み、商工会議所とともに共同して実現をめざしました。

3万円以上の買い物で
1万円の補助金も

商工会議所は、この助成制度を応援する特別事業を実施し、制度を利用した人が地元の小売店から3万円以上の買い物をすれば、1万円の補助金を交付しました。

この制度は、当初消費税が3%から5%に増税されたとき、緊急不況対策として、東京都板橋区でスタートし、関西では兵庫県明石市、京都府では福知山市、綱野町(現・京丹後市)などで導入されました。

京福知山市



再開を求める声ひるがる
残念ながら、2007年度予算にこの制度の継続ができませんでした。

「耐震補強、バリアフリー、まちなみ保全、地元林業の振興、CO2削減など、自治体が抱える個別の課題を考えた場合、住まいの改善に関する情報提供と具体的な支援となる、この助成制度の確立が一層必要となつていて」と京建労委員長は話しており、制度の再開や小規模事業所登録制度創設を求める声が広がっています。

投信で地域経済振興が図れるのか
地域経済に責任を持つ地銀や信金では、安直な手数料稼ぎのため、近年、投資信託の販売にノルマを課すようになりますとして推進していますが、投信で地域経済の振興など図れるはずがありません。

地域経済を活性化させるこのような助成制度を融資面で応援していくような商品開発こそ優先されるべきではないでしょうか。

社長三態

社長	会社で怒鳴る
副社長	テレビで謝る
社長	正親・非正親労働者を良い道てる